別記様式第２号（その１の１）

基　本　計　画　書（補 正）

基　本　計　画									
事　項		記　入　欄							備　考
計画の区分		研究科の専攻（専門職大学院）の設置							
フリガナ 設置者		コクリツダイガクホウジンワカヤマダイガク 国立大学法人和歌山大学							
フリガナ 大学の名称		ワカヤマダイガクダイガクイン 和歌山大学大学院（Graduate School of Wakayama University）							
大学本部の位置		和歌山市栄谷９３０							
大学の目的		和歌山大学は、大きく変化する社会において次世代の文化、教育そして産業における新しい価値の創造に取り組むとともに、その担い手となる人材の育成を、国内外の社会、特に地域社会の多様な関係者と共に取り組む。このために、社会的、国際的に開かれた大学とし、多様な価値を理解する教育、新しい価値を創造する研究を進める場としての機能を最大限に発揮するための不断の努力を行う。さらに、和歌山圏域における中核的教育研究機関として、地域課題の解決に地域と協働して取り組むとともに、地域の知的活動の高度化に貢献する。							
新設学部等の目的		新たな時代の観光地域づくりを先導する「観光地域共創人材」を育成するため、観光学研究科に観光地域マネジメント専攻（専門職大学院）を新設する。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次		専門職大学院
	観光学研究科 [Graduate School of Tourism]								【基礎となる学部】 観光学部
	観光地域マネジメント専攻 [The Professional Graduate School of Destination Management]	2	10	－	20	観光地域マネジメント修士（専門職） 【Master of Destination Management】	令和5年4月 第1年次	和歌山市栄谷９３０	14条特例の実施
	計								
同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）		（入学定員の変更） ・観光学研究科 観光学専攻〔定員減〕　（△ 8）（令和5年4月） （当該申請等以外の申請等を行う場合） ・学部等連携課程実施基本組織※事前相談予定 社会インフォマティクス学環　（経済学部の入学定員の内数【10】、 システム工学部の入学定員の内数【15】、観光学部の入学定員の内数【5】）							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
		講義	演習	実験・実習	計				
	観光学研究科 観光地域マネジメント専攻	21　科目	7　科目	3　科目	31　科目		38　単位		

教員組織の		学部等の名称	専任教員等						兼任教員等
			教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	新設分	観光学研究科　観光地域マネジメント専攻（専門職学位課程）	7 人 (7)	2 人 (2)	1 人 (1)	0 人 (0)	10 人 (10)	0 人 (0)	11 人 (11)
		計	7 (7)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	11 (11)
	既設	教育学研究科　教職開発専攻（専門職学位課程）	15 (15)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	0 (0)
		経済学研究科　経済学専攻（修士課程）	20 (20)	15 (15)	3 (3)	1 (1)	39 (39)	0 (0)	38 (38)
		システム工学研究科　システム工学専攻（博士前期課程）	29 (29)	26 (26)	7 (7)	7 (7)	69 (69)	0 (0)	17 (17)
		システム工学研究科　システム工学専攻（博士後期課程）	29 (29)	26 (26)	7 (7)	7 (7)	69 (69)	0 (0)	17 (17)
		観光学研究科　観光学専攻（博士前期課程）	6 (6)	7 (7)	0 (0)	1 (1)	14 (14)	1 (1)	18 (18)

概要									
分	観光学研究科　観光学専攻（博士後期課程）	12 (12)	8 (8)	0 (0)	1 (1)	21 (21)	1 (1)	18 (18)	
	計	109 (109)	76 (76)	12 (12)	11 (11)	208 (208)	1 (1)	ー (ー)	
合　計		110 (110)	77 (77)	13 (13)	11 (11)	211 (211)	1 (1)	ー (ー)	

教員以外の職員の概要	職　種	専　任	兼　任	計	
	事務職員	126 人 (126)	106 人 (106)	232 人 (232)	
	技術職員	29 (29)	23 (23)	52 (52)	
	図書館専門職員	3 (3)	0 (0)	3 (3)	
	その他の職員	1 (1)	14 (14)	15 (15)	
	計	159 (159)	143 (143)	302 (302)	

校地等	区　分	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	校舎敷地	138,336 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	138,336 ㎡	
	運動場用地	44,480 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	44,480 ㎡	
	小計	182,816 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	182,816 ㎡	
	その他	231,772 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	231,772 ㎡	
	合計	414,588 ㎡	0 ㎡	0 ㎡	414,588 ㎡	

校舎	専　用	共　用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体
	78,656 ㎡ (78,656 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	0 ㎡ (0 ㎡)	78,656 ㎡ (78,656 ㎡)	

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体
	56 室	48 室	72 室	6 室 （補助職員　0人）	0 室 （補助職員　0人）	

専任教員研究室	新設学部等の名称	室　数	
	観光学研究科　観光地域マネジメント専攻	10 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分を含む
	観光学研究科 観光地域マネジメント専攻 （専門職学位課程）	697,763〔197,184〕 (697,763〔197,184〕)	7,176〔2,284〕 (7,176〔2,284〕)	1,837〔1,794〕 (1,837〔1,794〕)	8,382 (8,382)	ー	ー	
	計	697,763〔197,184〕 (697,763〔197,184〕)	7,176〔2,284〕 (7,176〔2,284〕)	1,837〔1,794〕 (1,837〔1,794〕)	8,382 (8,382)	ー	ー	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	大学全体
	9,741 ㎡	782	1,029,084	

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	3,263 ㎡	陸上競技場　1面	テニスコート14面

経費の見積り及び維持方法の概要	区　分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等								国費（運営費交付金）による
	共同研究費等								
	図書購入費								
	設備購入費								

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	千円	千円	千円	千円	千円	千円

学生納付金以外の維持方法の概要	

大学の名称	和歌山大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
教育学部	年	人	年次 人	人		倍 1.03	昭和24年度	和歌山市栄谷930

既設大学等の状況	学校教育教員養成課程	4	165	—	660	学士（教育学）	1.03	平成11年度		
	経済学部						1.04	昭和24年度	和歌山市栄谷930	
	経済学科	4	300	３年次 10	1,220	学士（経済学）	1.04	平成28年度		
	ビジネスマネジメント学科	4	—	—	—	学士（経済学）	—	平成4年度		学生募集停止（平成28年度）
	市場環境学科	4	—	—	—	学士（経済学）	—	平成8年度		学生募集停止（平成28年度）
	システム工学部						1.04	平成7年度	和歌山市栄谷930	
	システム工学科	4	305	３年次 20	1,260	学士（工学）	1.04	平成27年度		
	情報通信システム学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		学生募集停止（平成27年度）
	光メカトロニクス学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		学生募集停止（平成27年度）
	精密物質学科	4	—	—	—	学士（工学）	—	平成7年度		学生募集停止（平成27年度）
	観光学部						1.05	平成20年度	和歌山市栄谷930	
	観光学科	4	120	—	480	学士（観光学）	1.05	平成28年度		
	観光経営学科	4	—	—	—	学士（観光学）	—	平成20年度		学生募集停止（平成28年度）
	教育学研究科						0.70	平成5年度	和歌山市栄谷930	
	教職開発専攻	2	30	—	60	教職修士（専門職）	0.70	平成28年度		
	経済学研究科						1.15	昭和41年度	和歌山市栄谷930	
	経済学専攻	2	38	—	76	修士（経済学）	1.15	令和3年度		
	経営学専攻	2	—	—	—	修士（経済学）	—	昭和43年度		学生募集停止（令和3年度）
	市場環境学専攻	2	—	—	—	修士（経済学）	—	平成11年度		学生募集停止（令和3年度）
	システム工学研究科						1.00	平成12年度	和歌山市栄谷930	
	システム工学専攻	2	129	—	258	修士（工学）	1.10	平成12年度		
	システム工学専攻	3	8	—	24	博士（工学）	0.91	平成14年度		
	観光学研究科						0.96	平成23年度	和歌山市栄谷930	
	観光学専攻	2	14	—	28	修士（観光学）	0.88	平成23年度		
	観光学専攻	3	6	—	18	博士（観光学）	1.05	平成26年度		
附属施設の概要	名　称：学術情報センター 目　的：本学の図書その他の各種図書館資料及び各種図書館施設・設備を整備・運用するほか、情報戦略及び実施に係る事項を取扱い、並びに情報専門教育、情報一般教育、計算機利用環境の提供、研究開発支援等に資することを目的とする。 所在地：和歌山市栄谷930 設置年月：平成9年4月 規 模 等：建物 12,398㎡ 名　称：紀伊半島価値共創基幹 目　的：紀伊半島が抱える課題の解決と地域の事業発展について、自治体・企業等と連携した教育研究の展開により、地域社会の発展に寄与することを目的とする。 所在地：和歌山市栄谷930 設置年月：令和2年4月 規 模 等：建物 10,814㎡（東3号館の一部）									

	名　称：産学連携イノベーションセンター 目　的：先端的・独創的研究を推進することを目指し、このため、重点領域を定めて、研究拠点の育成を図り、研究面における産官学金連携活動を通じて、その成果を広く社会に還元することを目的とする。 所在地：和歌山市栄谷930 設置年月：平成11年4月 規 模 等：建物 1,150㎡ 名　称：国際観光学研究センター 目　的：本学における観光学教育研究を発展させ、観光学教育研究の世界的な拠点を形成するとともに、観光学を基点に学部・研究科等の人材・強み・特色を結集し、その成果を全学に還元・循環する仕組みを構築することにより、全学的な教育・研究機能の強化に資することを目的とする。 所在地：和歌山市栄谷930 設置年月：平成28年4月 規 模 等：建物 1,125㎡（西1号館の一部）	

（注）

1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。

3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。

5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

国立大学法人和歌山大学　設置認可等に関わる組織の移行表

令和4年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
和歌山大学					和歌山大学				
教育学部					教育学部				
学校教育教員養成課程	165	－	660		学校教育教員養成課程	165	－	660	
経済学部					経済学部				
経済学科	300	3年次 10	1,220		経済学科	300	3年次 10	1,220	社会インフォマティクス学環の内数【10】
ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	0	3年次 0	0		ﾋﾞｼﾞﾈｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	0	3年次 0	0	平成28年4月学生募集停止
市場環境学科	0	3年次 0	0		市場環境学科	0	3年次 0	0	平成28年4月学生募集停止
ｼｽﾃﾑ工学部					ｼｽﾃﾑ工学部				
ｼｽﾃﾑ工学科	305	20	1,260	→	ｼｽﾃﾑ工学科	305	20	1,260	社会インフォマティクス学環の内数【15】
情報通信ｼｽﾃﾑ学科	0	3年次 0	0		情報通信ｼｽﾃﾑ学科	0	3年次 0	0	平成27年4月学生募集停止
光ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ学科	0	3年次 0	0		光ﾒｶﾄﾛﾆｸｽ学科	0	3年次 0	0	平成27年4月学生募集停止
精密物質学科	0	3年次 0	0		精密物質学科	0	3年次 0	0	平成27年4月学生募集停止
観光学部					観光学部				
観光学科	120	－	480		観光学科	120	－	480	社会インフォマティクス学環の内数【5】
観光経営学科	0	－	0		観光経営学科	0	－	0	平成28年4月学生募集停止
					社会ｲﾝﾌｫﾏﾃｨｸｽ学環	【30】	－	【120】	学部等連携課程実施基本組織の設置（事前相談予定）
計	890	30	3,620		計	890	30	3,620	
和歌山大学大学院					和歌山大学大学院				
教育学研究科					教育学研究科				
教職開発専攻（P）	30	－	60		教職開発専攻（P）	30	－	60	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻（M）	38	－	76		経済学専攻（M）	38	－	76	
経営学専攻（M）	0	－	0	→	経営学専攻（M）	0	－	0	令和3年4月学生募集停止
市場環境学専攻（M）	0	－	0		市場環境学専攻（M）	0	－	0	令和3年4月学生募集停止
ｼｽﾃﾑ工学研究科					ｼｽﾃﾑ工学研究科				
ｼｽﾃﾑ工学専攻（M）	129	－	258		ｼｽﾃﾑ工学専攻（M）	129	－	258	
ｼｽﾃﾑ工学専攻（D）	8	－	24		ｼｽﾃﾑ工学専攻（D）	8	－	24	
観光学研究科					観光学研究科				
観光学専攻（M）	14	－	28		観光学専攻（M）	6	－	12	定員変更(△8)
					観光地域ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ専攻（P）	10	－	20	研究科の専攻の設置（認可申請）
観光学専攻（D）	6	－	18		観光学専攻（D）	6	－	18	
計	225		464		計	227		468	

別記様式第２号（その２の１）　　**補正後**

教　育　課　程　等　の　概　要

（観光学研究科観光地域マネジメント専攻（専門職大学院））

科目区分	授業科目の名称	配当年次（クォーター）	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基盤科目	観光地事情	１①	1			○			6	1					オムニバス/メディア
	観光倫理と持続可能性	１①	1			○								兼1	集中/メディア
	グループワーク手法	１①		1			○							兼1	メディア
	観光地域実習	１②	1					○	6	1					集中/オムニバス/メディア/※演習含む
	観光地エスノグラフィー	１②	1			○			1						メディア
	会計学	１③		1		○								兼1	メディア
	経営理念	１③		1		○			1						メディア
	地域と文化のストーリー	１③		1		○								兼1	メディア
	地域と自然のストーリー	１④		1		○			2					兼1	オムニバス/メディア
	ファイナンシャルマネジメント	１④		1		○								兼1	メディア
	観光地における危機管理	１④	1			○								兼2	オムニバス/メディア
	経営戦略	１④		1		○				1					メディア
	ヴァーチャル観光	２①		1		○			1						メディア
	ビジネスモデル	２①		1		○			1						メディア
	人的資源管理	２①		1		○								兼1	メディア
	小計（15科目）	－	5	10	0	－			6	1	0	0	0	兼9	
専門科目	観光地マーケティング	１①②	2			○			2						オムニバス/メディア
	観光地ビジュアルデザイン	１①②		2		○			1						メディア
	観光地プロデュース	１①②	2			○				1					メディア
	地域映像プロデュース	１③④		2		○			1						メディア
	観光ツアープランニング	１③④		2		○				1					メディア
	観光資源と地域コミュニティ	１③④	2			○			1						メディア
	リーダーシップとコミュニケーション	１③④		2		○				1					メディア
	小計（7科目）	－	6	8	0	－			4	2	0	0	0	0	
実践科目	観光地域マネジメントの潮流	１①②	2			○					1				メディア
	観光地データ分析演習	１①	2				○		1						メディア
	持続可能な観光指標分析演習	１②	2				○							兼1	メディア
	SNSマーケティング演習	１③	2				○							兼1	メディア
	観光地経営戦略演習	１④	2				○		1		1				オムニバス/集中/メディア
	プロフェッショナルライティングⅠ	２①	1				○		7	2	1				メディア
	観光地域プロジェクトⅠ	２②	4					○	7	2	1				※演習、集中/メディア
	観光地域プロジェクトⅡ	２③	4					○	7	2	1				※演習、集中/メディア
	プロフェッショナルライティングⅡ	２④	1				○		7	2	1				メディア
	小計（9科目）	－	20	0	0	－			7	2	1	0	0	兼2	
合計（31科目）		－	31	18	0	－			7	2	1	0	0	兼11	

学位又は称号	観光地域マネジメント修士（専門職）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【修了要件】 専門職大学院を修了するためには、当該課程に2年以上在学し、所定の38単位以上を修得しなければならない。 【履修方法】 基盤科目8単位以上、専門科目10単位以上、実践科目20単位、合計38単位以上を修得すること。 【履修科目登録の上限】 年間38単位とする。	１学年の学期区分	４ 期
	１学期の授業期間	８ 週
	１時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その２の１）

補正前

教　育　課　程　等　の　概　要

（観光学研究科観光地域マネジメント専攻（専門職大学院））

科目区分	授業科目の名称	配当年次（クォーター）	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
基盤科目	観光地事情	１①	1			○			6	1					オムニバス/メディア
	持続可能な観光基礎	１①	1			○								兼1	集中/メディア
	観光地域実習	１②	1					○	6	1					集中/オムニバス/メディア/※演習含む
	観光ドキュメンタリー	１②	1			○			1						メディア
	会計学	１②		1		○								兼1	メディア
	ファイナンシャルマネジメント	１③		1		○								兼1	メディア
	地域と文化のストーリー	１③		1		○								兼1	メディア
	地域と自然のストーリー	１④		1		○			2					兼1	オムニバス/メディア
	観光と経営理念	１④		1		○			1						メディア
	観光と危機管理	１④	1			○								兼2	オムニバス/メディア
	人的資源管理	２①		1		○								兼1	メディア
	ヴァーチャル観光	２①		1		○			1						メディア
	小計（12科目）	－	5	7	0	－			6	1	0	0	0	兼8	
専門科目	観光地マーケティング	１①②	2			○			2						オムニバス/メディア
	ビジュアルデザイン	１①②		2		○			1						メディア
	観光地プロデュース	１①②	2			○				1					メディア
	地域映像プロデュース	１③④		2		○			1						メディア
	観光ツアープランニング	１③④		2		○				1					メディア
	小計（5科目）	－	4	6	0	－			3	1	0	0	0	0	
地域共創科目	リーダーシップとコミュニケーション	１③	1			○				1					メディア
	ビジネスモデル	１③		1		○			1						メディア
	地域産業と観光	１④		1		○				1					メディア
	グループワーク手法	２①		1			○							兼1	メディア
	小計（4科目）	－	1	3	0	－			1	1	0	0	0	兼1	
実践科目	観光地域マネジメントの潮流	１①②	2			○					1				メディア
	観光地データ分析演習	１①	2				○		1						メディア
	持続可能な観光指標分析演習	１②	2				○							兼1	メディア
	SNSマーケティング演習	１③	2				○							兼1	メディア
	観光地経営戦略演習	１④	2				○		1		1				オムニバス/集中/メディア
	プロフェッショナルライティングⅠ	２①	1				○		7	2	1				メディア
	観光地域プロジェクトⅠ	２②	4					○	7	2	1				※演習、集中/メディア
	観光地域プロジェクトⅡ	２③	4					○	7	2	1				※演習、集中/メディア
	プロフェッショナルライティングⅡ	２④	1				○		7	2	1				メディア
	小計（9科目）	－	20	0	0	－			7	2	1	0	0	兼2	
合計（30科目）		－	30	16	0	－			7	2	1	0	0	兼11	

学位又は称号	観光地域マネジメント修士（専門職）	学位又は学科の分野	社会学・社会福祉学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
【修了要件】 専門職大学院を修了するためには、当該課程に2年以上在学し、所定の38単位以上を修得しなければならない。 【履修方法】 基盤科目7単位以上、専門科目8単位以上、地域共創科目3単位以上、実践科目20単位、合計38単位以上を修得すること。 【履修科目登録の上限】 年間33単位とする。	１学年の学期区分	4 期
	１学期の授業期間	8 週
	１時限の授業時間	90 分

別記様式第２号（その２の１）

教　育　課　程　等　の　概　要

（観光学部観光学科等）

科目区分		授業科目の名称	配当次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
教養教育科目	教養科目（基幹）	わかやま未来学	1①	1			○								兼13
		「教養の森」ゼミナール24	1・2・3・4①		1			○		1					兼2
		「教養の森」ゼミナール25	1・2・3・4②		1			○		1					兼2
		「教養の森」ゼミナール26	1・2・3・4③		1			○		1					兼2
		「教養の森」ゼミナール27	1・2・3・4④		1			○		1					兼2
		サイエンス論	1・2・3・4①		1		○			1					兼1
		大学論	1・2・3・4①		1		○								兼1
		哲学	1・2・3・4①		1		○								兼5
		ワーク・ライフ論	1・2・3・4①		1		○								兼2
		材料科学と技術展開	1・2・3・4①		1		○								兼1
		地球科学	1・2・3・4①		1		○								兼3
		天文学	1・2・3・4①		1		○			1					兼1
		ミクロの宇宙論	1・2・3・4①		1		○								兼3
		自然と環境	1・2・3・4②		1		○								兼5
		ジェンダー論	1・2・3・4②		1		○								兼1
		生と死を考える	1・2・3・4②		1		○								兼7
		ロボット学	1・2・3・4②		1		○								兼1
		言語学	1・2・3・4②		1		○								兼1
		現代社会におけるリーダーシップ	1・2・3・4②		1		○			1					兼1
		現代日本の教育課題	1・2・3・4②		1		○								兼1
		倫理学	1・2・3・4②		1		○								兼1
		経済学の考え方	1・2・3・4②		1		○	○							兼1
		宗教学	1・2・3・4②		1		○								兼1
		文学	1・2・3・4②		1		○								兼2
		歴史の見方・考え方	1・2・3・4②		1		○			1					兼4
		災害科学	1・2・3・4②		1		○								兼2
		食農学	1・2・3・4②		1		○								兼1
		地域学	1・2・3・4②		1		○			1	1				兼6
		知的財産権	1・2・3・4②		1		○	○							兼3
		論理的思考	1・2・3・4後		2		○								兼1
		わかやまを学ぶ	1・2・3・4前		2		○								兼1
		社会科学方法論	2・3・4		2		○								兼1
		囲碁から広がる教養の世界	1・2・3・4前		2		○								兼3
		宇宙開発論	1・2・3・4①		1		○								兼1
		記憶力と認知力	1・2・3・4後		2		○								兼1
		驚異の小宇宙・人体	1・2・3・4③		1		○								兼1
		心理学概論	1・2・3・4前		2		○								兼1
		心理学総論	1・2・3・4後		2		○								兼1
		驚異の小宇宙・遺伝子	1・2・3・4④		1		○								兼1
		障がい学生支援概論	1・2・3・4後		2		○								兼1
		わかやま沿岸域の環境問題を考える	1・2・3・4②		1		○								兼1
		Survey of Pre-Modern Japanese Poetry in Translation	1・2・3・4前		2		○								兼1
		Survey of Pre-Modern Japanese Prose in Translation	1・2・3・4後		2		○								兼1
		英語の歴史	1・2・3・4後		2		○								兼1
		外国語としての日本語を学ぶ	1・2・3・4後		2		○								兼1
		学生生活の危機管理	1・2・3・4後		2		○								兼7

教養教育科目	教養科目（基幹）	教育学総論	1・2・3・4後		2		○								兼1
		近代日本の教育課題	1・2・3・4①		1		○								兼1
		研究倫理	2・3・4③		1		○	○							兼1
		技術者倫理	2・3・4④		1		○	○							兼1
		和歌山企業トップ経営論	1・2・3・4後		2		○								兼2
		ASEANと日本	1・2・3・4後		2		○								兼1
		教養としての政治学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		国際協力論	1・2・3・4前		2		○								兼1
		多様な視点からみる現代東南アジア	1・2・3・4②		1		○								兼1
		国際開発論	1・2・3・4前		2		○	○							兼1
		国際化時代の文化と思想	1・2・3・4後		2		○								兼5
		世界史とつながる日本史	1・2・3・4①		1		○								兼1
		世界の情報通信研究を知る	1・2・3・4後		2		○								兼7
		中国文化史	1・2・3・4後		2		○								兼1
		ドイツの歴史と文化	1・2・3・4後		2		○								兼1
		グローバル・エネルギー・トレンド	1・2③		1		○								兼2
		観光と色彩	1・2・3・4前		2		○	○		1					
		自然災害と防災・減災	1・2・3・4後		2		○								兼6
		災害ボランティア学	1・2・3・4③		1		○	○							兼1
		事前復興まちづくり学	1・2・3・4④		1		○								兼2
		人文地理学	1・2・3・4前		2		○								兼1
		地域協働セミナー	1・2・3・4後		2		○			1	1				兼8
		アントレプレナーシップ基礎	1・2・3・4②		1		○								兼2
		日本国憲法	1・2・3・4前		2		○								兼1
		民俗芸能論	1・2・3・4前		2		○								兼1
		わかやまの先人たち	1・2・3・4前		2		○								兼1
		小計（72科目）	－	1	101		－			11	2	0	0	0	50
	教養科目（実践）	データサイエンスへの誘いA	1・2・3・4①		1		○	○							兼3
		データサイエンスへの誘いB	1・2・3・4②		1		○	○							兼3
		データサイエンス入門A	1・2・3・4③		1		○	○							兼3
		データサイエンス入門B	1・2・3・4④		1		○	○							兼3
		情報処理ⅠA	1・2・3・4①	1				○		1					
		情報処理ⅠB	1・2・3・4②	1				○		1					
		情報処理ⅡA	1・2・3・4③	1				○							兼1
		情報処理ⅡB	1・2・3・4④	1				○							兼1
		英語ⅠA	2前		2			○							兼1
		英語ⅠA	2前		2			○							兼1
		英語ⅠA	2前		2			○							兼1
		英語ⅠA	2前		2			○							兼1
		英語ⅠB	2前		2			○							兼1
		英語ⅠB	2前		2			○							兼1
		英語ⅠB	2前		2			○							兼1
		英語ⅠB	2前		2			○							兼1
		英語ⅡA	2後		2			○							兼1
		英語ⅡA	2後		2			○							兼1
		英語ⅡA	2後		2			○							兼1
		英語ⅡA	2後		2			○							兼1
		英語ⅡB	2後		2			○							兼1
		英語ⅡB	2後		2			○							兼1
		英語ⅡB	2後		2			○							兼1
		英語ⅡB	2後		2			○							兼1
		英語ⅢA	2前		2			○							兼1
		英語ⅢA	2前		2			○							兼1
		英語ⅢA	2前		2			○							兼1
		英語ⅢA	2前		2			○							兼1
		英語ⅣA	2後		2			○							兼1

教養教育科目	教養科目（実践）	英語ⅣＡ	2後		2			○							兼1
		英語ⅣＡ	2後		2			○							兼1
		英語ⅣＡ	2後		2			○							兼1
		ドイツ語入門	2前		2		○	○							兼1
		ドイツ語入門	2前		2		○	○							兼1
		ドイツ語初級	2後		2		○	○							兼1
		ドイツ語初級	2後		2		○	○							兼1
		ドイツ語中級A	2前		2		○	○							兼1
		ドイツ語中級B	2後		2		○	○							兼1
		フランス語入門	2前		2		○	○							兼1
		フランス語初級	2後		2		○	○							兼1
		中国語入門	2前		2		○	○							兼1
		中国語入門	2前		2		○	○							兼1
		中国語初級	2後		2		○	○							兼1
		中国語初級	2後		2		○	○							兼1
		中国語中級A	2前		2		○	○							兼1
		ハングル入門	2前		2		○	○							兼1
		ハングル初級	2後		2		○	○							兼1
		スポーツ実習A	1前		1				○						兼1
		スポーツ実習C	1前		1				○						兼1
		スポーツ実習E	1前		1				○						兼1
		スポーツ実習F	1前		1				○						兼1
		スポーツ実習G	1前		1				○						兼1
		スポーツ実習H	1前		1				○						兼1
		スポーツ実習I	1後		1				○						兼1
		スポーツ実習K	1後		1				○						兼1
		スポーツ実習M	1後		1				○						兼1
		スポーツ実習N	1後		1				○						兼1
		スポーツ実習O	1後		1				○						兼1
		スポーツ実習P	1後		1				○						兼1
		地域創業論	2前		2		○								兼2・集中
		地域協働演習基礎	1①		1			○		2	1				兼8
		地域協働演習A	1②		1			○		2	1				兼8
		地域協働演習B	1③		1			○		2	1				兼7
		地域協働演習C	1④		1			○		2	1				兼7
		地域協働演習Adv.	2通		2			○		2	1				兼8
		暮らしと法律	2後		2		○								兼1/集中
		旅人の哲学	2後		2		○								兼1/集中
		経営人類学	2前		2		○			1					集中
		癒しとメンタルヘルス	2前		2		○	○							兼3/集中
		地域づくりの理論と実践C	2通		2		○			1					兼1/集中
		コロナ後の世界と私たちの生活	2前		2		○								兼5/集中
		地域観光戦略論Ｂ	2前		2		○	○							兼4/集中
		現代社会の教育課題	1・2・3・4前		1		○	○							兼2/集中
		SNSと子どもの世界	1・2・3・4前		1		○	○							兼1/集中
		ポストコロナ社会の心身と暮らしを考える	2後		2		○	○							兼7/集中
		災害の文化と地域の祭礼	2後		2		○								兼3/集中
		地域の課題と多様な関わりを考える	1・2・3・4②		1		○								兼2
		たなべフィールド演習	1後		1				○						兼1/集中
		南紀熊野の地域資源研究	2後		2		○								兼2
		食と農のこれからを考える	2後		2		○			1					兼2
		消費者市民と社会	2後		2		○	○							兼1/集中
		アントレプレナーシップ実践	1・2・3・4③		1		○	○							兼2/集中
		データサイエンス基礎	2前		2		○	○							兼2
		データサイエンス応用	2後		2		○	○							兼2
		データサイエンス実践	2①		2		○	○							兼3

教養教育科目	教養科目（実践）	人工知能の初歩	1・2・3・4①		1		○	○							兼3
		人工知能概論	1・2・3・4②		1		○	○							兼4
		数理・データサイエンス・AI活用PBL	2通		2		○	○							兼3/集中
		異文化コミュニケーション共同演習A	2前		2			○							兼1
		異文化コミュニケーション共同演習B	2後		2			○							兼1
		国際協力オンライン演習	2後		2			○							兼1
		日本語教育演習 A	2前		2			○							兼1
		日本語教育演習 B	2後		2			○							兼1
		博物館概論	2後		2		○								兼1
		博物館経営論	2通		2		○								兼1/集中
		博物館教育論	2前		2		○	○							兼1
		博物館情報・メディア論	2通		2		○								兼1/集中
		博物館資料論	2後		2		○	○		1					兼3
		博物館資料保存論	2後		2		○								兼2/集中
		博物館展示論	2通		2		○	○							兼1/集中
		博物館実習Ⅰ	2後		2			○							兼1
		博物館実習Ⅰ	2後		2			○							兼1/集中
		博物館実習Ⅱ	1・2・3・4通		1			○							兼1/集中
		自主演習A	1・2・3・4前		1			○							
		自主演習B	1・2・3・4後		1			○							
		自主演習C	1・2・3・4前		1			○							
		自主演習D	1・2・3・4後		1			○							
		自主演習E	1・2・3・4前		1			○							
		自主演習F	1・2・3・4後		1			○							
		自主演習G	1・2・3・4前		1			○							
		自主演習H	1・2・3・4後		1			○							
		小計（111科目）	－	4	178		－			12	5	0	0	0	82
専門教育科目	専門連接科目	Tourism and Language A	1前		2		○								兼１
		Tourism and Language B	1後		2		○								兼１
		会計学	2①		2		○			1					
		観光キャリアデザインⅠ	1①		2		○			1					
		観光キャリアデザインⅡ	2①		2		○			1					
		途上国の政治と環境問題	1・2・3・4後		2		○			1					
		社会教育概説Ａ	1・2・3・4前		2		○			1					
		社会教育概説Ｂ	1・2・3・4後		2		○			1					
		栽培学および実習Ａ	1・2・3・4前		3		○				1				
		栽培学および実習Ｂ	1・2・3・4後		3		○				1				
		防災教育論	1・2・3・4後		2		○			1					
		和歌山の自然	1・2・3・4前後		2		○			2					
		交通システム論A	1・2・3・4①		1		○			1					
		会計学A	1・2・3・4①		1		○			1					
		交通システム論B	1・2・3・4②		1		○			1					
		租税法実務	1・2・3・4②		2		○								兼１
		会計学B	1・2・3・4②		1		○			1					
		国家基盤づくりに係る土地・家屋の調査	1・2・3・4前		2		○								兼１
		会計学D	1・2・3・4④		1		○			1					
		資本市場の役割と証券投資	1・2・3・4④		2		○								兼１
		労働行政実務	1・2・3・4後		2		○								兼１
		都市デザインA	1・2・3・4①		1		○				1				
		都市デザインB	1・2・3・4②		1		○				1				
		防災工学	1・2・3・4後		2		○			1					
		モバイルシステム技術論1	1・2・3・4②		1		○			1					
		モバイルシステム技術論2	1・2・3・4③		1		○			1					
		情報ネットワークA	1・2・3・4①		1		○			1					
		発想法	1・2・3・4④		1		○			1					

専門教育科目	専門連接科目	ビジネスインテリジェンス	1・2・3・4③		1		○			1					
		観光関連法規Ｂ	1・2・3・4④		2		○				1				
		国際観光論	1・2・3・4②		2		○			1					
		観光地プロデュース論	1・2・3・4通		2		○			1					兼1
		小計（32科目）	－	0	54	0	－			8	3	0	0	0	7
	専門導入科目	基礎演習	1前	2						6	4				
		観光学概論	1①	2						2					
		小計（2科目）	－	4	0	0	－			8	4	0	0	0	
	専門基礎科目	日本文化演習A	1③	2				○							兼1
		日本文化演習B	1③	2				○							兼1
		日本文化演習C	1④	2				○							兼1
		日本文化演習D	1②	2				○							兼1
		プロジェクト演習	2前	2				○			1				
		観光政策	1①		2		○								兼1
		観光中国語	1①		2		○								兼1
		観光韓国語	1①		2		○								兼1
		わかやま観光事情	1①		2		○								兼1
		観光関連法規Ｂ	1①		2		○				1				
		ホスピタリティ論	1①		2		○				1				
		観光と情報発信	1通		2		○								兼1
		観光関連法規Ａ	1①		2		○								兼1
		観光と情報表現	1①		2		○								兼1
		観光メディア論	1①		2		○								兼1
		観光史（ｔ）	1①		2		○								兼1
		日本観光事情（ｔ）	1①		2		○								兼1
		観光プロデュース論	1①		2		○								兼1
		観光地プロデュース論	1通		2		○								兼1
		観光・地域づくり講座	1後		1		○			1					
		観光調査法Ａ	1①		2		○			1					兼1
		Academic Skills Ⅰ	1後		2		○								兼1
		Academic Skills Ⅱ	2		2		○				1				兼1
		国際観光論	1①		2		○			1					
		国際交流論	1前		2		○								兼1
		Principles of Tourism A	1①		2		○				1				
		Principles of Tourism B	1①		2		○				1				
		Principles of Tourism C	2①		2		○				1				
		Principles of Tourism D	2①		2		○			1					
		世界観光地論	1①		2		○								兼1
		観光学部インターンシップＡ	1		1			○		1					
		観光学部インターンシップＢ	1		2			○		1					
		観光学部インターンシップＣ	1		4			○		1					
		観光学部インターンシップＤ	1		7			○		1					
		観光学部インターンシップE	2		1			○		1					
		観光学部インターンシップF	2		2			○		1					
		観光学部インターンシップG	2		4			○		1					
		観光学部インターンシップH	2		7			○		1					
		観光学部インターンシップJ	3		1			○		1					
		観光学部インターンシップK	3		2			○		1					
		観光学部インターンシップL	3		4			○		1					
		観光学部インターンシップM	3		7			○		1					
		観光学部インターンシップN	4		1			○		1					
		観光学部インターンシップO	4		2			○		1					
		観光学部インターンシップP	4		4			○		1					

専門教育科目	専門基礎科目	観光学部インターンシップQ	4		7			○		1					
		Global Corporate Internship A	1		1			○		1					
		Global Corporate Internship B	1		2			○		1					
		Global Corporate Internship C	1		4			○		1					
		Global Corporate Internship D	1		7			○		1					
		Global Corporate Internship E	2		1			○		1					
		Global Corporate Internship F	2		2			○		1					
		Global Corporate Internship G	2		4			○		1					
		Global Corporate Internship H	2		7			○		1					
		Global Corporate Internship J	3		1			○		1					
		Global Corporate Internship K	3		2			○		1					
		Global Corporate Internship L	3		4			○		1					
		Global Corporate Internship M	3		7			○		1					
		Global Corporate Internship N	4		1			○		1					
		Global Corporate Internship O	4		2			○		1					
		Global Corporate Internship P	4		4			○		1					
		Global Corporate Internship Q	4		7			○		1					
		Global Learning Activity A	1		1			○		1					
		Global Learning Activity B	1		2			○		1					
		Global Learning Activity C	1		4			○		1					
		Global Learning Activity D	1		7			○		1					
		Global Learning Activity E	2		1			○		1					
		Global Learning Activity F	2		2			○		1					
		Global Learning Activity G	2		4			○		1					
		Global Learning Activity H	2		7			○		1					
		Global Learning Activity J	3		1			○		1					
		Global Learning Activity K	3		2			○		1					
		Global Learning Activity L	3		4			○		1					
		Global Learning Activity M	3		7			○		1					
		Global Learning Activity N	4		1			○		1					
		Global Learning Activity O	4		2			○		1					
		Global Learning Activity P	4		4			○		1					
		Global Learning Activity Q	4		7			○		1					
		プロジェクト自主演習A	2		1			○		1					
		プロジェクト自主演習B	2		2			○		1					
		プロジェクト自主演習C	2		4			○		1					
		プロジェクト自主演習D	2		7			○		1					
		プロジェクト自主演習E	3		1			○		1					
		プロジェクト自主演習F	3		2			○		1					
		プロジェクト自主演習G	3		4			○		1					
		プロジェクト自主演習H	3		7			○		1					
		プロジェクト自主演習J	4		1			○		1					
		プロジェクト自主演習K	4		2			○		1					
		プロジェクト自主演習L	4		4			○		1					
		プロジェクト自主演習M	4		7			○		1					
		Self-Directed Project A	2		1			○		1					集中
		Self-Directed Project B	2		2			○		1					集中
		Self-Directed Project C	2		4			○		1					集中
		Self-Directed Project D	2		7			○		1					集中
		Self-Directed Project E	3		1			○		1					集中
		Self-Directed Project F	3		2			○		1					集中
		Self-Directed Project G	3		4			○		1					集中
		Self-Directed Project H	3		7			○		1					集中
		Self-Directed Project J	4		1			○		1					集中
		Self-Directed Project K	4		2			○		1					集中
		Self-Directed Project L	4		4			○		1					集中

専門教育科目	専門基礎科目	Self-Directed Project M	4		7			○		1					集中
		English Lab ⅠA	1後		2			○		1					
		English Lab ⅠB	2後		2			○		1					
		南信州・飯田フィールドスタディG	1通		1			○		1					
		南信州・飯田フィールドスタディH	2通		1			○		1					
		南信州・飯田フィールドスタディⅠ	3通		2			○		1					
		南信州・飯田フィールドスタディJ	4通		2			○		1					
		小計（108科目）	－	10	313	0		－		12	7	0	0	0	21
	専門科目	観光人材論	2・3・4①		2		○			1					
		観光マーケティング論	2・3・4①		2		○			1					
		サービスマネジメント論	2・3・4①		2		○				1				
		観光経営論	2・3・4①		2		○			1					
		観光組織論	2・3・4①		2		○				1				
		観光経営特殊講義A	2・3・4①		2		○			1					
		観光経営特殊講義B	2・3・4①		2		○			1					
		旅行産業論	2・3・4①		2		○								兼1
		観光戦略論（t）	2・3・4①		2		○				1				
		観光まちづくり論	2・3・4①		2		○			1					
		観光資源論	2・3・4①		2		○			1					
		地域再生論	2・3・4①		2		○			1					
		地域再生と関連法規	2・3・4①		2		○				1				
		観光空間計画論	2・3・4①		2		○				1				
		観光と都市農村交流	2・3・4①		2		○								兼1
		地域再生特殊講義B	2・3・4前		2		○								兼1
		観光地マネジメント論（t）	2・3・4①		2		○			1					
		観光と視覚	2・3・4①		2		○			1					
		観光文化特殊講義A	2・3・4①		2		○								兼1
		観光文化論	2・3・4①		2		○								兼1
		観光と心	2・3・4①		2		○			1					
		観光文化特殊講義B	2・3・4①		2		○								兼1
		観光文化特殊講義C	2・3・4①		2		○								兼1
		観光と社会	2・3・4①		2		○								兼1
		観光デザイン論（t）	2・3・4①		2		○			1					
		観光とダイバーシティ	2・3・4①		2		○			1					
		観光と異文化理解	2・3・4①		2		○			1					
		中山間地域再生論	2・3・4①		2		○								兼1
		観光と音楽	2・3・4①		2		○								兼1
		観光表現論	2・3・4前		2		○			1					
		観光と食料農業	2・3・4通		2		○								兼1
		観光とパフォーマンス	2・3・4①		2		○								兼1
		観光と宗教	2・3・4①		2		○								兼1
		観光とコミュニティ	2・3・4①		2		○								兼1
		観光地形成論	2・3・4①		2		○								兼1
		地域形成史	2・3・4①		2		○				1				
		観光応用プロジェクトA	2・3・4通		2		○								兼1
		観光映像論	2・3・4①		2		○			1					
		Urban Tourism	2・3・4①		2		○			1					
		Tourist Behavior	2・3・4①		2		○				1				
		Global Learning Advanced A	2		1			○		1					
		Global Learning Advanced B	2		2			○		1					
		Global Learning Advanced C	2		3			○		1					
		Global Learning Advanced D	2		4			○		1					
		Global Learning Advanced E	3		1			○		1					
		Global Learning Advanced F	3		2			○		1					
		Global Learning Advanced G	3		3			○		1					
		Global Learning Advanced H	3		4			○		1					

専門教育科目	専門科目	Global Learning Advanced J	4		1			○		1					
		Global Learning Advanced K	4		2			○		1					
		Global Learning Advanced L	4		3			○		1					
		Global Learning Advanced M	4		4			○		1					
		Event Management	2①		2		○				1				
		Sustainable Destination Management	2通		2		○			1					
		Strategic Tourism Management	2①		2		○			1					
		Tourism and Hospitality Marketing	2①		2		○			1					
		Customer Relationship Management	2①		2		○			1					
		Tourism and Environment	2通		2		○								兼1
		Local/Rural Tourism	2①		2		○			1					
		Nature Tourism	2①		2		○				1				
		Ethics of Tourism	2①		2		○				1				
		Tourism and Culture	2①		2		○			1					
		Critical Tourism Issues A	2①		2		○								
		Critical Tourism Issues B	2前		2		○				1				
		専門演習Ⅰ	3通	4				○		12	8				
		専門演習Ⅱ	4通	4				○		12	8				兼1
		Global Semiar	4通	4				○		12	8				
		卒業論文	4通	4				○		12	8				兼1
		Dissertation	4通	4				○		12	8				
		小計（69科目）	―	20	134	0	―			12	8	0	0	0	19
合計（394科目）			―	39	780	0	―			12	8	0	0	0	170

学位又は称号	学士（観光学）	学位又は学科の分野	経済学関係

卒業要件及び履修方法	授業間等	
教養教育科目24単位 教養科目（基幹）　7 単位 教養科目（実践）　14 単位 教養科目（基幹または実践）3 単位 **専門教育科目100単位** 専門連接科目　16　単位 専門導入科目　4　単位 専門基礎科目　32　単位 専門科目　48　単位 **合計　124　単位**	1学年の学区分	4　期
	1学期の授業間	8　週
	1時限の授業時間	90　分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

観光学研究科観光地域マネジメント専攻（専門職大学院）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	観光地事情	日本は人口減少期を迎え、それぞれの地域の固有の文化をどのように後世に残すかが大きな課題となっている。固有の文化は、その地域で暮らす人々の生活の上に形成されたものであるがゆえ、それまでの生活が続かない限りは存続できない。そのため、日本の観光地域では、地域の人々の生活の維持のための交流人口の拡大を目指し、観光まちづくりを進めてきた。そして、その地域それぞれの特色を持った形で進み、同じ温泉地であってもその風土や食によって観光まちづくりの進め方は異なってくる。 本授業では、観光地域マネジメント専攻の教員それぞれが各自の研究フィールドで行ってきた事例を、その背景と効果検証を含めて紹介する。 （オムニバス方式／全8回） （1　尾久土　正己／2回） テクノロジーの視点から、観光地の事例についてその背景と効果検証を含めて教授する。 （2　大浦　由美／2回） 地域資源管理の視点から、観光地の事例についてその背景と効果検証を含めて教授する。 （3　木川　剛志／2回） 観光映像の視点から、観光地の事例についてその背景と効果検証を含めて教授する。 （4　北村　元成／2回） デザインの視点から、観光地の事例についてその背景と効果検証を含めて教授する。 （5　佐々木　壮太郎／2回） マーケティングの視点から、観光地の事例についてその背景と効果検証を含めて教授する。 （6 出口 竜也／2回） 観光地経営の視点から、観光地の事例についてその背景と効果検証を含めて教授する。 （7　竹林　浩志／2回） 観光地経営戦略の視点から、観光地の事例についてその背景と効果検証を含めて教授する。	オムニバス/メディア
	観光倫理と持続可能性	観光は国際的な基幹産業となると同時に、気候変動や来訪地の混雑など、その環境、社会的負荷が課題となってきた。国連世界観光機関(UNWTO)の「世界観光倫理(GCET)」では、観光で守られるべき基本的理念が１０の原則として謳われてきたが、2030年までの国際目標であるSDGsへの意識が高まり、脱炭素目標などが具体化する今日、観光においてもその実践的対応が喫緊の課題となってきている。2021年11月に発表された「観光における気候変動に関するグラスゴー宣言」にもある気候変動や多様な環境危機への対策、また、飢餓や貧困の軽減、多様性やディーセントワークの推進により、豊かで持続可能な社会を築くこと、経済活動としての「利益」は事業者や来訪者のみならず、地域、環境、コミュニティーも含めた総合的な「豊かさ」につながるべきであること、これらの意識は、今や観光地域経営に関わる全ての人材に求められる。この科目では、環境・社会的倫理を含む「持続可能な観光地域経営」の基本理念となる「サステナビリティー」概念の歴史的成立をたどり、理論とその実践、さらにモニタリングツールなどの具体的手法を学ぶ。	集中/メディア
	グループワーク手法	観光地域づくりにおいては、地域住民や観光事業者相互等の合意にもとづく持続可能な地域資源の活用が求められる。そのためには、各アクターが対話し、合意形成することが必要不可欠である。 地域づくりにおける対話の代表的な方法としては、関係者を対象とした、学習会やワークショップなどが広く行われている。この授業では、学習会やワークショップで用いられるグループワークの手法を取り扱う。 具体的には、簡単なケースをもちいたグループワークを通じて、アイスブレイク手法、話し合いの方法、ファシリテーション手法、付箋紙等の効果的な使い方、リフレクションの方法などを、ディスカッションを行いながら学ぶことにより、地域づくりにおけるコミュニケーションのあり方を身につける。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	観光地域実習	観光地域における振興策は、それぞれの地域の事情に大きく依存している。本実習では、実際の観光地の運営に必要な実践的知見を習得するため、教員とともに観光地域にフィールドワークに赴き、現地でしか見ることのできない事象を体験する。また、そのような体験で得た知見を理論化し、実践知として身につけるために、現地実習の前後に受講者間でグループディスカッションを行い観光地における諸問題について討論するほか、実地に得た知見についてのプレゼンテーションを行う。 （1　尾久土　正己） テクノロジーの視点から、観光地域におけるフィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションの指導を行う。 （2　大浦　由美） 地域資源管理の視点から、観光地域におけるフィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションの指導を行う。 （3　木川　剛志） 観光映像の視点から、観光地域におけるフィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションの指導を行う。 （4　北村　元成） デザインの視点から、観光地域におけるフィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションの指導を行う。 （5　佐々木　壮太郎） マーケティングの視点から、観光地域におけるフィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションの指導を行う。 （6 出口竜也） 観光地経営の視点から、観光地域におけるフィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションの指導を行う。 （7　竹林　浩志） 観光地経営戦略の視点から、観光地域におけるフィールドワーク、グループディスカッション、プレゼンテーションの指導を行う。	集中/オムニバス/メディア/※演習含む 実習　18時間 演習　6時間
	観光地エスノグラフィー	観光地域には様々な立場の人々が存在し、それぞれの役割が複雑に交差し、地域社会を構築している。このような地域社会を理解するには、地域に深く関わって参与することが必要となる。このように地域社会内部に入り込むことによってコミュニケーションを重ね、協働的関係を構築する手法を、理論的背景と実例を通じて学ぶ。その地域の深層を抽出する手法として、本授業では特に“ドキュメンタリー映像・映画”“観光映像”を教材として扱い、授業内において議論を重ねることによって、より深く観光地域を理解する。	メディア
	会計学	この授業の目的は，ファイナンシャルマネジメントを学ぶ前提となる会計の基礎知識を身につけることである。 観光・地域づくりでは，個々の地域ごとに特性が違うため，歴史・文化・自然など地域に固有のコミュニケーション言語を理解することが求められる。一方，事業運営においては，継続的に事業を実施するための戦略的な計画と実施を進めるためのコミュニケーション言語として会計や財務に関わる知識や理解を深めることが求められる。 そこで，この授業では，第一に，決算書を理解するための財務会計と事業運営のための管理会計の違いを学ぶ。第二に，事業計画を戦略的に立案する基礎となる会社の収益性，安全性，将来性に関する理解を深める。第三に，実際に利益計画策定に必要な知識の基礎として管理会計や原価計算の基礎を学ぶ。第四に，実践的な会計方法であるアメーバ経営の基礎となる採算計算について学ぶ。	メディア
	経営理念	経営理念とは経営者の経営目的、信念、行動指針などを明文化し、その企業が果たすべき使命や、基本姿勢などを社内外に向けて表明したものである。企業の進むべき将来像を示す羅針盤的な役割を果たし、対内的には、構成員の行動規範、価値判断や自己評価の基準となるものであり、対外的には他企業との違いを示すアイデンティティの基盤となるものでもあり、通常は長期にわたって持続的に受け継がれるものである。本授業科目では、この経営理念の果たす役割を多面的にとらえるとともに、地域の総合産業としての観光産業と経営理念の関係や、さまざまな業種のさまざまな企業が連携して形成される観光地において各企業が保有する経営理念を相互に理解することの重要性について解説していく。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	地域と文化のストーリー	地域の中にある文化資源を抽出し、地域のストーリーとして語り伝えるためには、たとえば住民が顕在的・潜在的に持ち続けてきた文化的素養を見出す教養の力が必要である。このような地域固有のストーリーに裏付けられた観光資源は、その地域を訪れる人びとにも新たな発見を促すものとして有効である。一方で、全国的に進む地域間格差、過疎化および高齢化にかかわる諸課題は、地域に疲弊と閉塞感をもたらすだけでなく、地域が持ち続けてきた文化の伝承を困難にしており、この傾向は今後も進んでいくことが予測される。本授業では、これらの点について、和歌山圏域に伝わる各地の埋もれつつあるストーリーの事例を示すことで、新たな地域と観光のストーリーを抽出し、創り出すための基盤となる考え方を修得する。 授業は講義形式とゼミナール形式で行い、講義で事前に出された課題について発表を行い、それらをもとに議論をする。	メディア
	地域と自然のストーリー	地域にある自然・環境は、代表的な観光資源として用いられることが多い。自然は私達に恩恵を与えてくれる一方で災害も与える。また、自然は私達人類の経済活動に対して脆弱である。このような状況で私たちは自然と共生していく姿勢を理解することが求められる。本授業では、このような自然と人類との関係、その共生の姿勢について和歌山の海・山・空の自然を例に学び、その共生から生まれてきた文化資源についての理解を通じて「地域と自然のストーリー」を創造するための基盤となる考え方を修得する。 授業は講義形式とゼミナール形式で行い、毎回の講義で事前に出された課題について発表を行い、それらをもとに議論をする。 （オムニバス方式／全8回） （1　尾久土　正己／4回） 自然のうち星空などの空の資源について、新たな観光のストーリーを紡ぐための考え方を教授する。 （2　大浦　由美／4回） 自然のうち森林など山の資源について、新たな観光のストーリーを紡ぐための考え方を教授する。 （18　中島　敦司／4回） 自然のうち海岸など海の資源について、新たな観光のストーリーを紡ぐための考え方を教授する	オムニバス /メディア
	ファイナンシャルマネジメント	観光産業は労働生産性や付加価値が低い産業の1つと言われているが、その大きな理由の1つとしてファイナンシャルマネジメントの実践が不足していることが挙げられる。観光産業といっても業種や規模によって儲け方や稼ぎ方は様々である。儲けの源泉は何なのか、持続的に稼ぐためには何が必要なのか、そのビジネスモデルを数字で説明できないと、どんなに立派な戦略やマーケティングも会社の業績にどのように直結しているかを正確に捉えることは困難である。 本講義では観光産業の再生や成長に最前線で関わってきた担当教員が、理論ではなく実践として使えるファイナンシャルマネジメントのコアスキルの体得を目指して、事業と財務を連動させたＰＬ・ＢＳ・ＣＦの本質と、それらを連動させてビジネスモデルを数字で見える化した財務モデリングを自在に操ることを目指す。	メディア
	観光地における危機管理	日本は変動帯であることから地震・火山による災害、また地球温暖化による集中豪雨による洪水・土砂災害などの自然災害が頻発している。さらに最近は世界規模の感染症により、これらはまとめて「危機」と言われ、それらに対応することが「危機管理」となる。特に自然災害の影響を受けている場所が、温泉や火山をはじめとした複雑な地形につながり、素晴らしい景観を醸して持続可能な観光地になっている場合が多い。これらのリスクに備えて、地元の地域資源を磨きあげながら、他にない特色ある観光地へしていく必要がある。そこで本授業では、様々な観光地での事例をもとに考え、今後予想されるリスクに対応できる汎用的な考え方を修得する。 （オムニバス方式／全8回） （15　此松　昌彦／6回） 防災科学の観点から、観光地における自然災害およびその対策を中心に危機管理の考え方を教授する。 （16　小河　健一／2回） 医学の観点から、現代観光における感染症対応を中心に危機管理の考え方を教授する。	オムニバス/メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
基盤科目	経営戦略	近年、地域・社会における様々な問題は経済的な問題に起因するとみられる傾向が強く、それらの解決を図るには、短期的な思考ではなく、長期的な視点に立った戦略的な思考が必要だと考えられている。そのためには、地域外の組織を含めた全体的な競争的環境の中で長期的・継続的に価値を作り出す仕組みをいかにデザインし、それをいかに維持するかが重要であると考えられる。 それゆえ、地域で観光を手段として活用する際には、観光産業の全体の構造、およびその環境条件を把握したうえで、地域としての全体的な方向性を設定し、地域における様々な個別企業の活動をその方向に向けて連動させて活動する必要がある。 そこで、この講義では、その際に必要と考えられる経営戦略的考え方を解説するとともに、地域で選択可能な活動のあり方を考えてもらう。	メディア
	ヴァーチャル観光	観光行動においては、文字などの記号を通して認識する情報だけでなく、五感などの感覚を通して認識する情報（感覚知）が大きなウェイトを占めている。そのため、実際に現地へ移動（旅行）し、感じることが重要視されてきた。しかし映像技術の発展により、様々なメディアを通じて観光地の映像が提供されるようになり、居住地にいながらにして観光の一部の体験ができるようになってきた。さらに、近年のヴァーチャルリアリティ（仮想現実）の技術が急速に発展する中で、まるでそこにいるかのような高い臨場感が実現できるようになってきている。 昨今の感染症などの様々なリスクを前に、観光においてもニューノーマルへの転換が期待されているが、ヴァーチャルリアリティを使った移動（旅行）を伴わない観光はその１つとして期待されている。本講義では、人間工学、感性工学の視点から人間の感覚知についての基礎を学修し、最先端のヴァーチャル観光の実験装置であるドームシアターや関連機器を使って、その具体的な事例と技法を学修するとともに、ヴァーチャル観光を通して、観光の本質である「人は何を求めて旅に出るのか」について議論を深める。 授業は講義形式とゼミナール形式で行い、講義で事前に出された課題について発表を行い、それらをもとに議論をする。	メディア
	ビジネスモデル	ビジネスモデルとは、利益を生み出す製品やサービスを生み出す事業戦略と収益構造を示す用語であり、1990年代における情報技術の発展にともなって急速に普及し、理論的にも実証的にも多くの研究成果が蓄積されている。この授業では、マネジメントの基礎となるビジネスモデルの構造と実態について解説するとともに、外部環境との相互作用から生まれるイノベーションの意義や、競合他社に簡単に模倣されないようなビジネスの設計思想について検討する。具体的には、①誰に向けて、どのような価値を提供するのか、②その価値をどのように提供するのか、③提供するにあたって必要な経営資源をどのような誘因を提供して集めるのか、④提供した価値に対してどのような収益モデルを構築して対価を得るか、について解説する。また、この授業はビジネスモデルのさまざまなアプローチに対する理解を深めるためにケーススタディを活用したディスカッションを行うとともに、ワークショップ形式で自身が取り組もうとしている事業もしくは優れたビジネスモデルを持つ企業を取り上げて意見交換を行い、最後に受講生一人一人がプレゼンテーションを行う。	メディア
	人的資源管理	今後，観光産業の国際競争力を持続的に高めていくには，特色ある観光サービスを創出することができるプロフェッショナル人材が必要となる。その際，多様な専門職の知を集結して地域に新たな価値を生み出していくこととなるが，専門職のマネジメントは非常に困難であることが特徴的である。しかし逆に言えば，困難であるからこそ，人材のマネジメントが優れている観光サービス組織は他組織が真似をできない競争優位を確立することとなる。 この講義では，人的資源管理論の基本的知識を習得するとともに，受講生の皆さんが職場等で抱えておられるヒトのマネジメントに関する課題を特定化し，その解決策について，データ収集・分析を通じて科学的に提案できるようになることを目的とする。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	観光地マーケティング	現代の観光地域のマネジメントにおいて、顧客志向にもとづくマーケティング活動と、それを基礎とした地域のブランディングは必須のものとなっている。この授業の前半では、地域が有する資源をもととして、ターゲットとなる顧客セグメントを選択し、顕在的ないし潜在的ニーズに対し的確に対応するために必要となるマーケティングの概念や知識を学ぶ。顧客志向の出発点となるマーケティングコンセプトから、観光地域や観光産業への応用に至るまで、ケース等を交えながら理解を深めていく。 授業の後半では、観光地域において喫緊の課題となるブランディングを取りあげる。最初にブランドが果たす役割とブランド価値の構造を理解し、強いブランドを築き上げるための手法や地域における事例の紹介などを通して、効果的なブランディングについての知識・能力を身につけていく。 （オムニバス方式／全15回） （4　北村　元成／4回） デザインの視点から、実際の地域ブランディングの事例をもとにしてブランディングの実践的な側面について教授する。 （5　佐々木　壮太郎／12回） マーケティングの視点から、観光地域のマーケティングおよびブランディングの理論的な側面について教授する。	オムニバス /メディア
	観光地ビジュアルデザイン	観光における様々なシーンにデザインは深く関わっている。観光商品を訴求するためにも、観光資源の体験を円滑にするためにも、地域アイデンティティを明確化しブランド力を向上させるためにも、観光地はあらゆるビジュアルを意図的整合性をもって効果的にデザインし、観光客とのビジュアルコミュニケーションを最適化する必要がある。 この授業では観光地の視覚的なデザインの現状に見られる様々な現象と課題について具体的な事例をもとに学び、観光地の問題解決に対するデザイン的なアプローチについて考察する。	メディア
	観光地プロデュース	2003年の小泉純一郎政権における「観光立国宣言」以降、観光地域マネジメントの必要性が認識されるようになっている。日本国政府は2015年にDMO（観光地域づくり法人）登録制度を設け、その形成・確立に向けた支援に取り組むとともに、各地で本格的な観光地プロデュースが試みられつつある。 観光地プロデュースに必要な、体制整備、ブランディング、ターゲティングの考え方や、それらを具体化していくプロセスを幾つかの事例を通して学び、ワークショップ等で議論を重ねることで、必要となる知識・ノウハウを身につけ、実践的な能力にまで向上させることをめざす。	メディア
	地域映像プロデュース	地域の魅力を伝える映像、移住促進を伝える映像など、観光地域におけるプロモーションには映像は大きな広告ツールとなっている。本演習では観光地域におけるプロモーション映像を制作するための、企画の立て方、仕様書の作成、納品後のデジタルマーケティングの手法について学ぶ。そのために、実際に観光映像を制作する。	メディア
	観光ツアープランニング	ツアーとは、観光地を物見遊山で消費するのではなく、地域資源を維持・継続するための手段である。「観光地プロデュース」の内容を下敷きとしながら、観光業界・旅行業界の理解を深め、「売り手」と「作り手」の立場と役割を理解したツアープランニングを習得する。 ツアープランニングで理解しなければならない、地域資源の活用や、地域住民や行政等様々な地域主体の協働の中で、それを具体化していくプロセスを幾つかの事例を通して学び、「地方創生」としての地域ツアープランニングを考察する。本講義では、新規のツアーを創出することだけを評価するのではなく、地域資源を維持・継続するために、既存のツアーの研究を通じて、リブランディングや磨き上げの視点も取り上げる。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	観光資源と地域コミュニティ	従来から、観光は地域活性化の有効な手段として位置づけられてきた。近年、観光立国政策の下で、より積極的な観光振興政策が進められるなかで、グローバル化の進展による地域経済の衰退や少子高齢化に悩む地域においては、地域の様々な資源を「発見」し、観光資源として開発・活用して新たな価値創造に取り組んでいる。 その一方で、観光は必ずしも地域に良い影響を与えるだけではない。2010年代後半に顕在化した「オーバーツーリズム」現象はその典型であり、とりわけ、生活空間の侵害やゴミ問題などの外部不経済の影響を被る生活者の地域コミュニティと深刻な対立を生じさせることがある。さらに、農村空間の景観などの主要な構成要素は、旧来的な地域コミュニティによる農林業等の営みによって形成されているが、近代化や大都市への人口集中によってコミュニティ自体も大きく変質しており、担い手の喪失により観光資源としての価値の維持管理が危ぶまれるケースもある。 この科目では、地域資源を活用した地域観光の歴史的展開を概観し、持続可能な観光地域づくりの重要なステークホルダーである地域コミュニティと観光推進組織との協働的関係性構築に関わる理論とその実践を学ぶことを通じて、地域観光運営において必要な視座を修得する。	メディア
	リーダーシップとコミュニケーション	地域をマネジメントする際に必要と考えられる組織および組織行動の理論を解説するとともにリーダーシップの本質を学ぶ。 近年、地域における観光運営を行う場合、多様な意思をもつ複数の組織が連動して活動しており、そこでは公式な組織構造的つながり（指示・命令）だけではなく、「考え方を共有する」といったような非公式な影響力が重視されることが多い。これは、地域を主体としてマネジメントを行う際には、そもそもは別の組織であるものたちが集まってコミュニケーションを図り、活動の方向性を共有することが必要であり、そこには一般的な企業で用いられる責任と権限のつながりだけではなく、リーダーシップといわれるような本質的な人間的つながりが必要だと考えられているからである。 そこで、この講義では組織・組織行動の諸理論を概観し、人間間の影響力について解説する。	メディア
実践科目	観光地域マネジメントの潮流	日本各地におけるこれまでの観光地域マネジメントの事例を俯瞰し、成功事例と失敗事例の分析を通じてマネジメントの手法とこれからのあり方を学ぶ。日本各地はこれまで多くの観光客を受け入れてきた。多くの人々が訪れる参詣地とそれに伴って土産物を販売する門前町。または温泉を中心に旅館が形成された温泉街。これらの観光地域の形成から、昭和の終わりの頃に盛んとなったリゾート開発、そして現在求められる観光まちづくりの考え方。これらの事例は国策に基づいた民間や地方行政の方針によって生まれたものも多く、このメカニズムを理解した上で、事例の背後にあるガバナンスの流れを読み解くことが必要となる。この授業では観光地域マネジメントの歴史を踏まえた上で、近代以降の成功事例と失敗事例を紹介しながら、観光地域マネジメントに必要な視点を学ぶ。また、現在の観光地域マネジメントに重要とされるデータ分析の導入として、それらを活用することが必要である根拠としてデータ分析を用いた成功事例とデータに依存し失敗した例などを示し、データと戦略の関係についても学ぶ。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践科目	観光地データ分析演習	観光地域マネジメントを的確に推進するためには、観光地域の実態を正確に把握・理解する必要がある。地域の実態の把握・理解は、これまで長年の経験にもとづく勘や経験が重要視されてきたが、急激に変化する現代社会において、過去の経験が足を引っ張るような事態、正しい判断に対して阻害要因となるような事態も懸念されるようになってきている。ビッグデータ時代とも呼ばれる現代社会において、地域の実態を把握・理解するためのデータとしては、観光地域における顧客情報等の業務データや各種の統計データはもちろんのこと、それらに加えて観光地域に関係した閲覧履歴や検索履歴、スマートフォン等から収集される移動履歴、SNS上における書き込みデータなど、観光地域およびその周囲で日々生成されるデータも想定することができる。これらの観光地域につながるあらゆるデータを組みあわせ、現実の観光地域を観察しているだけではあぶり出せない人・金・情報の動きを可視化することが求められている。 この演習では、マーケットデータ分析の基本すなわちマーケティングリサーチのステップを学ぶところから出発し、観光情報・地域情報等の各種データの基礎的な扱い方・活用例を理解し、観光地における人・金・情報の動きを実際のデータを用いて可視化し分析することを学ぶ。	メディア
	持続可能な観光指標分析演習	近年、SDGs、カーボンニュートラル、ゼロウェイストなど、よりサステナブルな経営のターゲットが設定される中、エビデンス/データベースの中長期的な目標設定、プランニングは、持続可能な政策において必須の知識、手法となってきている。特に世界基準によるベンチマーキングは、市場アクセス、ブランディングとしての有効な手段であり、経営の効率化、コスト削減、また従業員のモチベーションにもプラスの効果をもたらす。本演習では、持続可能な観光地マネジメントにおける、持続可能な観光指標(Sustainable Tourism Indicator, STI) という実践ツールを利用しての課題抽出、目標設定、モニタリング、評価に関する知識、技術を習得する。特に、持続可能な観光世界基準GSTCの日本版として観光庁が開発したJSTS-Dを用い、その活用と実践方法を分析、現場での実践も取り入れ、効果的な地域マネジメントの実際を学ぶ。 GSTC基準は、デスティネーション版と事業者版（ツアー/ホテル）があり、持続可能な観光の世界基準として各国で導入されている。観光庁が開発したJSTS-D(2020.6)はDMOや自治体、各種観光団体でも導入が奨励されており、それを主導する「サステナビリティコーディネーター」の役割が国内外でも注目されている。本演習で習得する知識・技術はコーディネーターの重要な役割の一つとなる。演習課題はJSTS-Dを用いての実際の観光地域、及び持続可能な観光商品の評価を含む。	メディア
	SNSマーケティング演習	近年、いわゆるSNSが情報収集・情報発信を行う際の有力なツールとなっている。なかでも、パソコンやスマートフォンを活用して地域やお店を検索する機能は、そこで得られる情報のコンテンツが集客の成否を分ける重要なカギとなっている。この授業では、さまざまなタイプのSNSの特性と有効な活用方法を概観した後、最も多くのユーザーに活用されているGoogleに焦点を絞り、その機能を最大限に活用した集客の仕方について解説する。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践科目	観光地経営戦略演習	現代の観光地経営には、顧客情報、各種統計データ、各種ビックデータなどのデータを効率よく収集整理し、さまざまな可視化・分析手法を用いて定量的、定性的に分析することが求められる。これらの可視化・分析されたデータに対して、学術的研究成果やSDGsなどの現代的概念を踏まえた解釈を加え、よりよい意思決定に結びつける必要がある。加えて、ここでの意思決定を実現していくためには、多くのステークホルダーとの協働が必要となり、その実現のためには高いガバナンス能力も必要となる。 この演習では、勘や経験により短期的視野のもとで行なわれがちだった意思決定に対し、これまでに学んだデータの可視化・分析手法やフレームワークによって得られた情報に基づき、長期的視野にもとづく意思決定を行うことを、グループワークを通じて実践的に学ぶ。その意思決定を実現するためのガバナンスの手法についても、グループワークを通じて議論を重ね、高いレベルの能力を涵養する。 （オムニバス方式／全15回） （8　香月　義之／9回） 実務的なデータ分析の観点から、観光地戦略・観光地経営の実際を教授し、グループワークの指導を行う。 （10　松田　敏幸／9回） 実務的な観光地戦略の観点から、観光地戦略・観光地経営の実際を教授し、グループワークの指導を行う。	オムニバス/ 集中/メディア
	プロフェッショナルライティングⅠ	プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計２ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに２人の指導教員、３人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。 プロフェッショナルライティングⅠでは、１年次第４クォーターにおける実習地域の決定を受け、実際の受け入れ先からあった募集要項に基づいたプロジェクト計画書の作成を学び、現地と連携しながら業務レベルの緻密な計画書を仕上げていく。 （1　尾久土　正己） テクノロジーの観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （2　大浦　由美） 地域資源管理の観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （3　木川　剛志） 観光映像の観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （4　北村　元成） デザインの観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （5　佐々木　壮太郎） マーケティングの観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （6　出口　竜也） 観光地経営の観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （7　竹林　浩志） 観光地経営戦略の観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （8　香月　義之） 実務的なデータ分析の観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （9　木村　ともえ） 実務的なツアープランニングの観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。 （10　松田　敏幸） 実務的な観光地戦略の観点から、実習地域から示された募集要項にもとづくプロジェクト計画書の作成を指導する。	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践科目	観光地域プロジェクトⅠ	プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計２ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに２人の指導教員、３人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。 観光地域プロジェクトⅠでは、１ヶ月程度（４週間、週４日間×８時間）の実地研修を行い、プロフェッショナルライティングⅠで作成した計画書が実際に動くかを試行し、動かない場合には修正を加えながら、プロジェクトを軌道に乗せ、この学びを通じてプロジェクトマネジメントにおける課題を発見することを目標にする。 （1　尾久土　正己） テクノロジーの観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （2　大浦　由美） 地域資源管理の観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （3　木川　剛志） 観光映像の観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （4　北村　元成） デザインの観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （5　佐々木　壮太郎） マーケティングの観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （6　出口　竜也） 観光地経営の観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （7　竹林　浩志） 観光地経営戦略の観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （8　香月　義之） プロジェクトの実施を統括するとともに、実務的なデータ分析の観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施について指導を行う。 （9　木村　ともえ） 実務的なツアープランニングの観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。 （10　松田　敏幸） 実務的な観光地戦略の観点から、実地演習としてのプロジェクトの実施についての指導を行う。	集中/メディア 実習　128時間 演習　8時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践科目	観光地域プロジェクトⅡ	プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計２ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに２人の指導教員、３人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。 観光地域プロジェクトⅡでは、１ヶ月程度（４週間、週４日間×８時間）の実地研修を行い、観光地域プロジェクトⅠの活動を受けて、プロジェクトの成果をまとめながら効果検証を行い、そこから地域課題・社会課題を深く理解することを目標とする。 （1　尾久土　正己） テクノロジーの観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （2　大浦　由美） 地域資源管理の観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （3　木川　剛志） 観光映像の観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （4　北村　元成） デザインの観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （5　佐々木　壮太郎） マーケティングの観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （6　出口　竜也） 観光地経営の観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （7　竹林　浩志） 観光地経営戦略の観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （8　香月　義之） プロジェクトの実施を統括するとともに、実務的なデータ分析の観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （9　木村　ともえ） 実務的なツアープランニングの観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。 （10　松田　敏幸） 実務的な観光地戦略の観点から、プロジェクトの実施と効果検証について指導を行う。	集中/メディア 実習　128時間 演習　8時間
	プロフェッショナルライティングⅡ	プロフェッショナルライティングⅠ・Ⅱ、観光地域プロジェクトⅠ・Ⅱは、DMOなどの観光地域団体が抱えるリアルな課題に対して、キャンパスで学んだ知見をもとに、教員とメンターのチーム指導のもと学生がプロジェクト計画を立て、計２ヶ月間、観光地域でリアルなプロジェクトを実施し、報告書にまとめ実践論文を発表する、実践的な一連の学びである。この学びを通じて学生が確実にディプロマ・ポリシーで掲げた能力を習得できるよう、学生それぞれに２人の指導教員、３人の実務家教員、受け入れ先のメンターがチームを作って指導する体制を用意する。 プロフェッショナルライティングⅡでは、観光地域プロジェクトⅠおよびⅡにおける実地研修の成果を、完了報告書、実習の受け入れ先に提出するプロジェクト報告書、外部への公表を前提とした実践論文の３種類にまとめあげ、実施したプロジェクトの評価・検討を行う。 プロフェッショナルライティングⅡでは、観光地域プロジェクトⅠおよびⅡにおける実地研修の成果を、完了報告書と実習の受け入れ先に提出するプロジェクト報告書にまとめあげ、実施したプロジェクトの評価・検討を行う。 また、報告書の作成と並行して、外部への公表を前提とした実践論文の作成も行う。 （次ページに続く）	メディア

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
実践科目	プロフェッショナルライティングⅡ	（1　尾久土　正己） テクノロジーの観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （2　大浦　由美） 地域資源管理の観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （3　木川　剛志） 観光映像の観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （4　北村　元成） デザインの観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （5　佐々木　壮太郎） マーケティングの観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （6　出口　竜也） 観光地経営の観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （7　竹林　浩志） 観光地経営戦略の観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （8　香月　義之） 実務的なデータ分析の観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （9　木村　ともえ） 実務的なツアープランニングの観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。 （10　松田　敏幸） 実務的な観光地戦略の観点から、実地研修の成果を報告書等にまとめていくための指導を行う。	メディア